

ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉をひらく●道をひらく●口・目をひらく●花がひらく●運をひらく●文化をひらく●インターネットをひらく●新聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——

特集

ハラスメント
アンケート154人に聞きました

2019.10

45

男女共同参画社会をめざす

特集



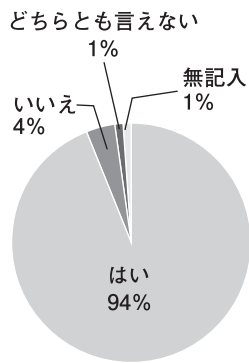
ハラスメント154アンケート

(harassment=人を困らせること、いやがらせ)

「ハラスメント」は英語で、人を困らせること、いやがらせを意味する言葉です。無意識の言動でも、聞いたり、受けたりした人が「嫌だ」「止めて」と感じればハラスメントになります。したがって、私たちの生活の様々な場でハラスメントが起っています。

そこで、「男女共同参画週間」に中央公民館で行われた講演会の参加者など、154人のみなさんにアンケートをしました。女性が男性の2倍でしたが、10歳代から80歳代まで幅広い年代の意見を知ることができました。

① ハラスメントの意味を知っていますか？

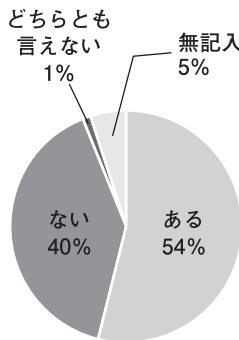


最初に「ハラスメントの意味を知っていますか？」と聞いたところ、94%の人が「はい」と答えました。

「最近、なんでもハラスメントという傾向がある」という意見や、「認知症になった人の言動をハラスメントと言えるのか？」という意見がありました。

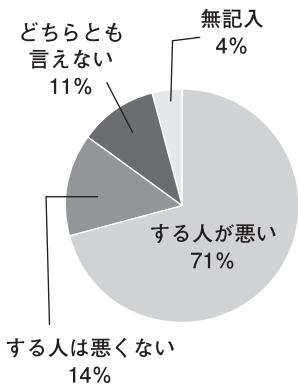
ハラスメントの意味は知られていても、どの言動がハラスメントになるのか、よくわからない人が多いのかもしれませんが。

② あなたの周りにハラスメントはありますか？

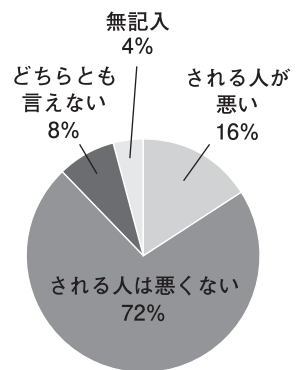


次に、身近にハラスメントがあるかどうかという問いに、「ある」と答えた人は54%と半数を超えました。ハラスメントは、珍しいことでなく、2人に1人が見たり聞いたり、体験したりしているのです。

③ ハラスメントをする人が悪いと思いますか？

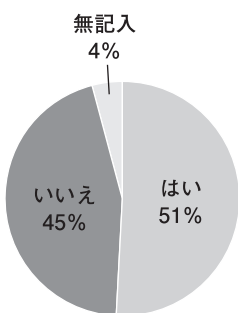


④ される人が悪いと思いますか？



71%の人が「する人が悪いと思う」と答え、72%の人が「される人は悪くない」と答えました。しかし、「する人は悪くない」と思う人が14%、「どちらともいえない」人が11%いました。そして「される人が悪い」と思う人も16%、「どちらともいえない」人が8%いました。これは意外な結果でした。

⑤ 相談先を知っていますか？



知っていると答えた人は51%、知らないと答えた人は45%。知っている人の方が少し多いですが、知らない人の割合も高いことがわかりました。

▼アンケートでは、以上5つの設問と3ページ、4ページの自由記述も行いました。

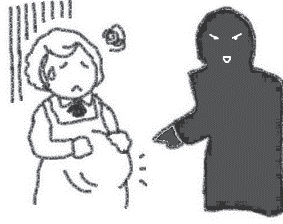
ハラスメントと聞いて思いつくこと



酒を飲んでいれば
何をしてもいいと思
っているのか！
(40代男性)

・仕事で上司が部下を
罵倒する。
・アルコール摂取の強要。
(30代男性ふく)

「妊娠・出産は病気で
ない」という周りの無理
解が辛い。
(60代女性)



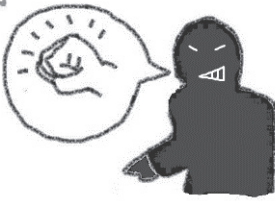
知人が産休明け職場へ戻るとき
上司から
「小さい子がいるうちは家に居て
は？」と言われたけれど頑張って
働いている。
(60代女性さくら)

仲間や年配の先生から指
導として体や手を触られ
て断れなかった。
(50代女性こうたか)

妊娠を理由に正社員から契約社
員にさせられた。
仕方ないと声を上げなかったこ
とが悔やまれる。
(30代女性LY)



力関係を利用した
いやがらせ。
(50代男性)



酒を飲むとセクハラを
する知り合いがいる。
(70代男性)

なんでもハラスメントと
言われ、言いたいことを
言葉にしにくい時代だ。
(30代男性やま)

受けた人が不快に感じたら
ハラスメント。そのやりとりを
聞いている人が不快に思っ
たら、ハラスメントだと学んだ。
これはなかなか気づけない。
(40代女性ゆ)

仕事でのハラスメントは小さなも
のまで含めるとたくさんあると
感じた。何度言っても同じ誤りを
する人にイライラを感じるのも
ハラスメントなのだと思った。
(60代男性better)



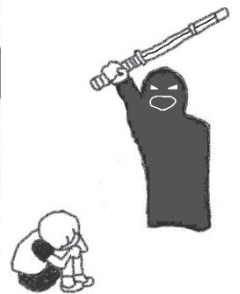
痴漢を睨んだら、「減るも
んじやないし」と言われ
た。ココロが減る。
(20代女性)



自分の気持ちを二方的に
相手に押しつける。
(40代女性)

お茶を出すのは女性とい
うのが当たり前だった。拒
否したら、いじめにあった。
(50代女性)

孫がスポーツクラブで
コーチから体罰、言葉の
暴力を受けている。
(70代女性)



男女共同参画週間(6月23日〜29日)には、全国でたくさんのイベントが行われました。小平市でも市役所に男女共同参画を進める懸垂幕が掲示されました。一階のロビーには男女共同参画を広げる展示がされ、6月22日には中央公民館のホールで講演会が開催されました。
会場には143人の市民が集まりました。マナーの専門家、松原奈緒美さんの人間関係をよくする会話、つきあい方についての講演を聴きました。

令和元年度 男女共同参画週間講演会
仕事も生活も10倍楽しくなるコミュニケーション術
～実は身近なハラスメント～ 講師 松原 奈緒美
主催 男女共同参画週間講演会実行委員会 /



「仕事も生活も10倍楽しくなる
コミュニケーション術
～実は身近なハラスメント～」
講師：松原奈緒美さん
6月22日 中央公民館ホール

男女共同参画週間講演会の報告

ハラスメントで悩んでいる人に一言

たくさんの声が集まりました

その声を出せる場所が必要。
〈40代女性Mほか〉

「私は気になる、嫌だと感じた」と表現する。
〈40代女性ゆ〉

誰か相談する人を見つけた。
NPO団体がある。
〈60代男性〉

あなたも悪くない！
〈60代女性・30代女性みみ〉

我慢しないで。
〈30代女性ほか〉

悪いことをしてない人は堂々としてほしい。
〈40代女性〉

誰かに、信頼している人に話すこと抱えておかない。
〈30代女性〉

されてるかも？と思ったら、恥ずかしながら人に話す。
〈40代女性〉

ハラスメントを受けた人が他の人にする。連鎖をやめよう。
〈50代女性・いつも心に太陽を〉

おかしなと思ったら、周りの人に「おかしいと思いませんか」と問いかける。連帯することも力になると思う。
〈50代女性coeur〉

誰かに、信頼している人に話すこと抱えておかない。
〈30代女性〉

泣き寝入りしないで前向きに頑張ってほしい。
〈40代女性へこぼん〉

相談先へGO！
と言ってあげたいけど…。
〈60代女性〉

声をあげよう！
あなたが困っていること、悩んでいることが未来の誰かのためになるかもしれない。
〈30代女性LY〉

あなたは被害者、自分を責めないで。
〈30代女性〉

ひとりで悩まないで。
〈50代女性くまもんほか〉

嫌になれば仕事をやめるのも手です。
〈60代男性〉

関係部署、協会、警察へ相談すべき。
〈40代男性DJ〉

本を読むことをすすめる。
〈70代女性〉

相談すべき。
〈40代男性DJ〉

最近の動き

ハラスメント規制について、セクシュアルハラスメントは1999年施行の改正男女雇用機会均等法で事業主の配慮義務を定め、2007年から事業主に防止措置を義務づけてきた。

マタニティハラスメントは、2017年から同法と改正育児・介護休業法で事業主の防止措置を義務化しました。

パワーハラスメントは、事業主に相談体制の整備など、防止対策を取るように義務づける改正労働施策総合推進法が今年5月に成立しました。大企業は2020年4月、中小企業は2022年4月から義務化される予定です。

労働局へのパワーハラスメントを含む「いじめ・嫌がらせ」の相談は、2018年度で全国8万2797件、相談内容別では7年連続最多となっています。

アンケートの回答を読んでハラスメントを無くすことの難しさを感じました。

ハラスメントをする人の多くが、無意識に他人を傷つけたり、不快にする言動をしているからです。被害者が「ハラスメントだ」と、声を上げて、初めて加害者はハラスメントをしていることを知ります。

それが許されない行動であること、それを理解するには時間がかかります。加害者に行為をやめさせるには専門的な知識と対応が必要です。その仕組みをつくるのが私たちに求められています。

相談機関

詳細は各ホームページをご覧ください

154人のハラスメントアンケート回答の中で、何人もの人が「周りの人に話すこと」「気持ちを表すこと」「相談すること」を挙げていました。相談窓口はいくつもあります。自分に合ったところを見つけてください。



小平市女性相談(042-345-2415)

《利用の流れ》

初回利用時(お電話)どんなことでお困りなのかお聞きします。



- 電話相談 (30分まで)
受付時間内にお電話ください。
- 面談相談 (60分まで)
ご予約いただき、来室してください。

必要に応じて専門の機関の紹介を行います。
小平市には「女性相談」の他に「法律相談」「人権・身の上相談」「家庭相談」などがあります。年々、相談件数が増えています。
お気軽にご相談ください。匿名可。無料。
相談受付時間 月 10:00~18:00
火~土 10:00~16:00

主な相談内容	相談窓口	担当機関	電話番号	受付時間	定休日
家庭内暴力、 交際相手からの暴力 夫婦・親子間の問題 生き方、人間関係等 の様々な悩み	小平市女性相談	小平市	042-345-2415	月 10:00-18:00 火~土10:00-16:00	日祝 年末年始
	小平市法律相談		予約電話 042-346-9508	(予約受付) 月~金 8:30-12:00 13:00-17:00	土日祝 年末年始
	小平市人権・身の上相談				
	小平市家庭相談				
	女性の悩み相談	東京ウィメンズプラザ	03-5467-2455	9:00-21:00	年末年始
	男性のための悩み相談	東京ウィメンズプラザ	03-3400-5313	月・水17:00-20:00	年末年始
	女性相談センター	東京都福祉保健局	03-5261-3110	月~金 9:00-20:00	土日祝 年末年始
	女性相談センター多摩支所	東京都福祉保健局	042-522-4232	月~金 9:00-16:00	土日祝 年末年始
	女性の人権ホットライン	法務省	0570-070-810	月~金 8:30-17:15	土日祝
	みんなの人権110番	法務省	0570-003-110	月~金 8:30-17:15	土日祝
働き方改革 男女均等・両立支援	東京労働局雇用環境・均等部	厚生労働省	03-3512-1611	月~金 8:30-17:15	土日祝 年末年始
雇用機会均等法 育児・介護休業法 パートタイム労働法 に関する相談	労働条件相談「ほっとライン」	厚生労働省	0120-811-610	月~金17:00-22:00 土日祝 9:00-21:00 平日夜間・土は一部対応不可	年末年始
賃金・退職金等の 労働条件や労使関係	東京都ろうどう100番	東京都労働相談情報 センター	0570-00-6100	月~金 9:00-20:00 土 9:00-17:00	日祝
その他	警視庁総合相談センター	警視庁	03-3501-0110 #9110	月~金 8:30-17:15	土日祝 年末年始

上記のほかに学校の相談窓口、社内相談窓口、社内コンプライアンス窓口、労働組合があります

男女共同参画センター



相談するに至らなくても、なんだかすっきりしない、モヤモヤするというときや、問題についての情報を探してみようというときには、男女共同参画センター(名称は様々)をお勧めします。本屋では見つけにくい本があり、悩みを解決するヒントを見つけることができるかもしれません。都内、多摩地域の講座・イベントのチラシもあります。

- ・小平市男女共同参画センター“ひらく”(6ページで紹介)
 - ・国分寺市立男女平等推進センター(ライツこくぶんじ)
 - ・東久留米市男女平等推進センター フィフティ・フィフティ
 - ・西東京市男女平等推進センター パリテ
 - ・清瀬市男女共同参画センター アイレック 等々
- 市外の人でも利用できます。



行ってみました

「小平市男女共同参画センター『ひらく』」

小平元気村おがわ
東2階にある「小平
市男女共同参画セン

ター『ひらく』は、男女共同参画

社会実現のための、情報収集・交
流の場として、また、市民活動の
ネットワーキ化を図るための場
所です。男女共同参画社会の形成
の促進を目的として活動してい
る団体・個人であれば、どなたで
も無料で利用できる施設となっ
ています。本誌の実行委員会も、
毎月この場所で開催しているの
ですが、改めて魅力を紹介したい
と思います。

参画センターには、机と椅子が
あり、打ち合わせやセミナー、イ
ベントはもちろん、冷暖房の効い
た室内で、お弁当を食べたりお
しゃべりすることができます。
また、『ひらく』の書棚コーナーで



紹介された本がテーマごとに壁
一面置いてあり、調べ物もでき、
気になる本を借りることもでき
ます。

特にオススメなのが、お子さん
を連れての利用です。子ども向け
のおもちゃや絵本はもちろん、赤
ちゃん向けの布団も用意してあ
ります。私も子どもが0歳の時
は、布団に寝かせたり、1歳に
なった今では、おもちゃで遊ばせ
たりしながら、利用させてもらっ
ています。

男女共同参画という難しい
イメージがありますが、とても気
軽に利用できる施設なので、家
族・介護・子育て・ハラスメントな
ど、身近な問題に興味を持った
時、ぜひのぞきにきてください。



小平 ひらく

検索



『ひらく』の書棚

小平市男女共同参画センター“ひらく”にある本の紹介です。本は借りることができます。



「『さよなら！ハラスメント』」

自分と社会を変える11の智慧

小島慶子 編

晶文社

本体価格 1750円＋税



官僚トップや著名なジャーナ
リストのセクハラ、大学医学部の
不正入試、スポーツ界のパワハラ
。次々に明るみに出てきたハラ
スメント問題。

タレントでエッセイストの小
島慶子さんと11人の識者のハラ
スメントをテーマにした対話集で
す。小説家、評論家、ライター、大
学関係者、弁護士、学者、ジャーナ
リストたちが、取材や研究、経験
をもとに様々な角度からハラ
スメントについて語っています。

印象的だったのは、当事者間の
問題ではなく、社会全体の問題で
あるという指摘です。当事者でな
くても傍観的だったり、無関心
だったりしたことがこの問題を
助長してきたと言えるというこ
ろです。

『社会が変わらないと解決しな
い』『ハラスメントはもうやめよ
う』と私たちに呼びかけていま
す。
(浅)

「82年生まれ、キム・ジョン」

チヨ・ナムジュ 著

斎藤真理子 訳

株式会社 筑摩書房

本体価格 1500円＋税

1982年に生まれたキム・
ジョンという女性を主人公にし
た韓国の小説。

社会通念や昔からの慣習で女
性を生きづらくしている実態
が、一人の女性の幼児期から学
生時代、就職活動時、職場、結
婚、家庭生活を通して明らかに
されていきます。

女性だからという理由だけで
不利益を被り、精神的に追い詰
められ、姑や友人の人格がとり
ついたような言動をするまでに
なり、カウンセリングを受ける
ようになったキム・ジョン。

生まれた時から男性が優遇さ
れ、女性差別、ハラスメントに
なりえることを許し続ける社
会。日本とは社会環境が違うの
で同じだとは言えませんが、大
いに共感できる小説で、韓国だ
けでなく、世界中で読まれベ
ストセラーになっています。

(安)



小平在住・在勤・在学の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

いきいき レディ 43



小平市津田町にある津田塾大学は、豊かな知性と人間性を兼ね備えた「オールラウンドな女性」を育成する女子大学です。高橋さんは2016年、その11代目の学長に就任しました。自身、津田塾大学で学び、女性のロールモデルが身近に数多く存在していたことが、研究者としての第一歩を形作ったそうです。

1980年代のほとんどは米国の大学院で過ごし、アメリカ社会史、特に女性史、家族史などを研究します。帰国し、90年に大学の専任教員となりました。しかし、90年代の10年間は仕事に加え、育児と両親の介護も重なり、「全力を出して

地域の人に支えられながら子育て・介護と仕事を両立した時代があった。

高橋 裕子（たかはし ゆうこ）さん

切り抜けた時代だったと言います。

困難を乗り越えることができたのは、周囲の支えがあったからでした。特に子どもの保育園仲間のお母さん・お父さんたちに助けられたそうです。ネットワークの中には看護師さんもいたので、子育てだけでなく、訪問看護の情報や支援も得ることができたのです。

責任を伴う多忙な仕事のなかで、子どもの小学校では保護者会の校外部に所属。運動会やマラソン大会の準備、お祭りの夜のパトロールなどにも参加しました。どうしても仕事で参加できないときは、地域の方が代わってくれました。周囲に支えられたおかげで、PTA活動にも積極的に関わられた、と言います。

地域との関わりは、津田塾大学も大切にしてきました。35年以上続く「総合」という授業は広く市民にも公開されています。地域の方たちが学生と机を並べて、生き生きと学んでいるのです。2017年度には渋谷区の千駄ヶ谷キャンパスに、女子大学では初となる総合政策学部が新設されました。ここでは「課題解決」をキーワードに、地域や企業と連携し、

地域の活性化を目指しています。来年の東京2020オリンピック・パラリンピックの会場にも近いので、近くの商店街などと連携して、さまざまなプロジェクトを展開していきます。

津田塾大学の前身、女子英学塾を創設したのは、2024年度から使われる新5千円券の肖像に決まった津田梅子です。津田梅子を模範として、女性バイオニアの長い列をつくりだしてきた津田塾大学。その中心にいる高橋さんは今年6月、小平市の長期総合計画基本構想審議会の会長に就任されました。まちづくりの羅針盤となる考えをまとめる会議で、市民の多くが共感できる構想が期待されます。



「アメリカ留学ー津田梅子」守屋多々志作屏風絵

提供：津田塾大学

第23回女と男のフォーラム

令和2(2020)年2月9日(日)午後1時30分～3時15分
中央公民館2階ホール



©稲垣純也

なくそう！ハラスメント ～社会はみんなで変えられる～

講師 小島 慶子（エッセイスト・タレント・東京大学大学院情報学環客員研究員）

今年度の「女と男のフォーラム」は、テレビでもお馴染みの小島慶子さんが「なくそう！ハラスメント～社会はみんなで変えられる～」というテーマで話されます。『身に沁みついたハラスメントの所作を脱ぎ捨てるため』にできることは何なのか？なぜハラスメントが起きるのか？考えるためのヒントについてお聞きます。講演を聞いていると、みんなで力を合わせて『ハラスメント』のない社会をつくりたい、という気持ちになるでしょう。

申込：令和2(2020)年1月6日(月)から市民協働・男女参画推進課へ(先着順)

ひらく

第45号
令和元(2019)年
10月発行

発行／小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課
☎042-346-9618 FAX 042-346-9575

企画・編集／男女共同参画推進実行委員会

浅野 里美 岸 和夫 谷原 裕子
安食世津子 北川 紘二 中丸友里恵
岡 武左 高橋 雅子

小平市男女共同参画センター「ひらく」

〒187-0031 小平市小川東町4-2-1

小平元気村おかわ東 2階

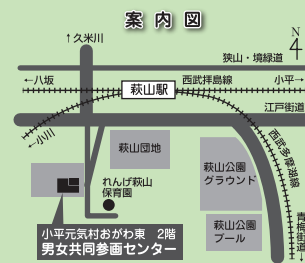
042-348-2112 (電話受付時間
午前9時30分～午後5時)

西武拝島線・西武多摩湖線 萩山駅南口より徒歩5分

※駐車場に限りがありますので、車でのご来館はご遠慮ください

- 開館時間 午前9時～午後10時
- 休館日 火曜日・年末年始・奇数月の第2日曜日
- 利用対象者 どなたでも(利用登録団体は予約可)
- 問合せ先 地域振興部市民協働・男女参画推進課

042-346-9618



『ひらく』は男女平等な社会、だれもが生きやすい社会、住みやすい地域を作るために役立つ広報誌です。公募市民が企画・編集をしています。一緒に広報誌を作ってくれる実行委員を募集しています。市民協働・男女参画推進課に連絡して下さい。